

## 令和7年度 第2回 調布市地域経済対策会議要旨について

開催日：令和7年9月12日（金） 午後3時から4時30分まで

場 所：市長公室（市役所5階）

出席者：渡部 完治（調布市商工会 会長）  
秋沢 淳雄（調布市商工会 副会長）  
玉村 秀樹（調布市商工会 副会長）  
相田 英俊（調布市商工会 商業部会長）  
品川 信幸（調布市商工会 工業部会長）  
瀧柳 伸央（調布市商工会 建設業部会副部会長）  
阿部 秀樹（調布市商工会 サービス業部会長）  
大前 勝巳（調布市商工会 商業部会副部会長）  
栗原 悠輔（調布市商工会 アドバイザー）  
平野 宗哲（調布市商工会 商工振興課長）  
佐伯 大太（多摩信用金庫 価値創造事業部地域支援グループ上席主任調査役）  
本田 尚美（調布市 副市長）  
鈴木 克昌（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興担当部長）  
伊東 良之（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課長）  
花岡 裕（調布市 生活文化スポーツ部 産業労働支援センター担当課長）  
宮地 朋子（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課主幹）  
栗野 和也（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課長補佐）  
渡部 孝幸（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課係長）  
杉本 祐二（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課産業労働支援係長）  
佐藤 恵太（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課主任）  
平野 栞（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課主事）  
フネブルグ 由佳（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課主事）

### 1. 開会

#### 【商工会会長】

- ・第70回商工まつりが10月に開催される。調布のまちを盛り上げるべく、多方面からの協力を得て準備を進めている。
- ・物価高騰や人材不足、原材料の高騰など、事業環境は依然として厳しい状況が続いている。市と商工会が引き続き協力の下、市内事業者が前向きに経営できる環境を整えていく必要がある。

### 2. 事業者支援策等の取組状況について

○調布市中小企業事業資金融資あっせん制度（コロナ・物価高騰口）の取組状況

## 【調布市】

- ・令和7年度の申請件数については、8月末時点で151件となっており、昨年度の同時期と比べて5件の増となっている。そのうち、コロナ・物価高騰口の件数は27件で、同じく3件増となっている。
- ・今年度についても、昨年度と同水準の融資あっせん件数となることを見込んでいる。

## ○人材確保に向けた市内事業者の魅力発信事業

### 【調布市】

- ・市内事業者においては、物価高騰や賃金の高騰などによる人材不足という課題がある。そのような状況を踏まえ、「産業振興ビジョン」に掲げる人材確保に向けた取組の一つとして、市内事業者の魅力を市報で紹介する事業（「調布で見つける自分らしい働き方」）を新たに実施する。
- ・商工会と連携して事業者を選定し、年2回、9月と3月に実施する。2事業者ずつ紹介予定。今後の反響や事業者からの要望に応じて内容を検討していく。

## ○第40回調布花火における市内飲食店PR事業

### 【調布市】

- ・第40回調布花火に合わせて、花火観覧者への市内消費喚起策として、市内飲食店をPRする取組を新たに実施する。商工会商業部会に所属する飲食店を中心に約30店舗と連携する。
- ・SNS広告を活用したPRや、歩くデジタルサイネージ広告サービス「モバネージ」を活用したPRに加えて、混雑可視化サービス「VACAN」を活用し、飲食店の混雑状況をリアルタイムに発信することで、市内飲食店への訪問を促す。

## ○市制施行70周年を記念した市内事業者との連携について

### 【調布市】

- ・商店会をはじめとする市内事業者と連携し、市制施行70周年記念ロゴや、70周年の要素を取り入れた商品を販売する。また、ゲゲゲ忌2025の期間中、飲食店などの店舗を通じて、「市制施行70周年×ゲゲゲ忌記念オリジナルノベルティ」を配付する。
- ・観光イベントと連動し、市内事業者の更なる周知を図るとともに、地域経済活性化につなげていく。

## ○新商品開発等補助事業の取組状況

### 【商工会事務局】

- ・申請件数及び採択件数は6件、補助決定額は合計834,000円となった。簡易的な設備の導入、デザイン・試作、マップ制作、周知関係費用など。ゼロベースからの商品開発はなかった。

## ○市内消費喚起事業（バイ調布チケット事業）の取組状況

### 【商工会事務局】

- ・今回で4回目の実施。対象エリアは調布駅周辺（小島町・布田）とする。約250店舗の参加を見込んでいる。これまで同様、チラシ全戸配布を行い、多くの方の購入を促す。

## ○調布市市内事業者物価高騰支援事業の取組状況

### 【商工会事務局】

- ・新規申請者も増加した。個別周知に加えて、事業者同士の口コミ効果もあったものと思われる。なお、全事業者への給付は9月中旬に完了予定。

## 3. 市内事業者の現状について

### 【商工会商業部会】

- ・市内商店会が開催する夏のイベントは、天候にも恵まれ、盛況のうちに終了した。
- ・新商品開発等補助事業について、事業者からの申請金額が想定よりも低額であったことや、申請締切を6月末と早めに設定していたことから、申請事業者が少なくなったと思われる。次年度においては、予算額を減額するとともに、補助内容を再度検討したい。また、積極的な参加を呼びかけていく方針である。
- ・バイ調布チケット事業について、次年度も工夫を凝らしながら継続実施する方針である。
- ・第70回商工まつりにおいて、例年実施していた「お楽しみ抽選会」について、新聞折込による抽選券の配布から、市内商店会の店舗で買い物を行った方への配布に変更することとした。市内商店会での消費を促したい。
- ・市内店舗への情報伝達手段の確立はかねてより課題となっていた。今年度、一部の市内商店会において、メール・ショートメール・FAXを活用した、店舗への一斉送信が可能な情報伝達システムを導入した。従来の手配りによる情報伝達に比べ、回答の集計作業が大幅に効率化された。市内事業者に対する迅速かつ確実な情報伝達は、今後ますます必要となると考えている。

### 【商工会工業部会】

- ・工業部会において、直近3箇月の経営状況に関するアンケート調査を実施した。受注状況については、横ばいが過半数を占める一方で、約3割の事業者では減少している。特に、部品加工業において厳しい状況である。
- ・また、半数以上の企業が採用活動を十分に行えていない状況にある。これに伴い、熟練工の不足や後継者の確保が深刻化している。結果として、従業員の業務負担が増加し、技能継承が上手く進まない状況が見られる。人材確保は喫緊の課題となっている。
- ・物価高騰やエネルギー費の高騰が続く中で、特に、自社工場を持つ中小事業者の収益は圧迫されているが、製品への価格転嫁が十分に進んでいない。
- ・新商品や新技術の開発に取り組む市内事業者もあり、モノづくりの新たな可能性が芽生えている。持続的な基盤を築いていく必要があると感じている。

### 【商工会建設業部会】

- ・人材確保は喫緊の課題となっている。人材を募集してもなかなか集まらず、多くの事業者が同様の悩みを抱えている。多くの事業者が同時に求人募集を行っている状況。そのような中で、市が実施する、市内事業者の魅力を市報で紹介する事業（「調布で見つける自分らしい働き方」）は、市内事業者をPRする有効な手段と考えている。
- ・これまでの建設業界では、日曜日及び祝日のみが休業日とされていたが、働き方改革の推進により、多くの事業者において週休二日制が導入された。労働条件は改善されたものの、建設業は屋外作業が主体であるため、天候の影響を受けやすく、工期に支障をきたすケースが多い。工期の延長により、労働力不足が加速するという新たな課題もある。
- ・建設業者へ建築資材等を供給する事業者においても、多くの事業者が週休二日制を固定化していることから、今後、材料の供給が滞り、工期に影響を及ぼすことが予想される。
- ・建設業全体としては、今後どのように人材を確保し、育成していくかが課題となる。それに応じて、就業環境を整えなければならない。

### 【商工会サービス業部会】

- ・依然として人材不足が続いており、慢性的に従業員が足りない状況。既存の従業員で業務を進めることから、残業時間が増加傾向にある。
- ・近年は、残業規制が厳格化していることから、現場運営においてこれまで以上に工夫が求められている。収益性の低い案件や、過度な業務負担が生じる案件については、受注を控える傾向が強まっている。
- ・10月から最低賃金が引き上げられることから、さらに利益を圧迫する要因になると見込んでいる。

### 【商工会アドバイザー】

- ・市内商店会が開催する夏のイベントを視察すると、例年以上に多くの来場者で賑わっていた。一方で、役員の方から話を聞くと、イベント準備などの協力体制に苦慮している状況が見受けられた。そのような状況を受け、複数の地域団体と連携し、イベントを実施している商店会もある。
- ・事務局を務める「調布まちゼミ」について、昨年、SNSを活用して事業者募集を行ったところ、商店会をはじめとする市内事業者の参加が増えた。市民への店舗PRにつながることから、今年度においても積極的な広報を行っていく。

### 【商工会 秋沢副会長】

- ・第70回商工まつりにおいて、新たな取組として、子どもを対象に職業体験の機会を設ける予定。これからは担う子どもたちに、市内事業者を知ってもらう機会になる。また、スポーツまつりが別日に開催されるが、商工まつりとの連携企画を設け、それぞれの来場者の回遊を図っている。

- ・原材料の価格上昇が継続する一方で、販売価格への転嫁を行った場合、消費者離れが生じる懸念がある。しかしながら、現状のコストを踏まえると、価格転嫁は避けられない。
- ・調布のまちの魅力向上を図るため、SNSを活用した情報発信を強化していく必要があると考えている。

### **【商工会 玉村副会長】**

- ・今年度における市内事業者の魅力発信や市内飲食店のPRをはじめ、市内商工業の振興に向けて、これまで市が様々な施策に取り組んできたことに対し、商工会として感謝している。
- ・今後開催される第40回調布花火においては、市内外から多くの方が訪れる。その機会を通じて「調布のまちが大きく変わった」という実感を来訪者に持っていただけることを期待している。

### **【多摩信用金庫】**

- ・人材不足と原材料価格の高騰により、事業継続を断念するケースが多く見受けられるようになった。今後は、市内事業者への確実な支援を行うため、従来の伴走型支援だけでなく、更なる支援体制の整備を進めていく。
- ・人材不足の解決に向け、協力会社と連携し、ビジネスマッチングの促進や、人材紹介を実施している。また、外国人の人材紹介も活発的に行っている。